

課題・意見総括

- 子育てに関する情報が取得しづらい、情報を得るための窓口がどこにあるか分からない
- 出産前のフォロー体制の強化など、安心して出産できる環境を整備してほしい
- 出産直後のストレス・不安など、子どもの年齢に応じて相談ができる場が少ない
- 出産後の子育てに関する知識不足があり、親が学べる機会も少ない
- 学齢が上がるほど、相談場所が減少するなど支援の機会が減っている
- 少子化や子ども会の加入率減少により、地域での子ども・親同士のつながりが薄い
- 地域において小さい子どもがいる親と敬老世代の交流が少ない
- 子どもが安全・安心に遊べる場所が少ない
- 広さの問題やボール遊び禁止など、公園での遊びが限定される
- 子どもに自信を持たせる環境づくりが必要である

<現状分析>

■子育てに関する情報提供、子育て力の強化について

子育てに関する情報提供、子育て力の強化などのテーマでは、膨大な情報の中から必要な情報を探すのが難しいという意見や、出産前後から就学後までの年齢に応じて相談できる窓口が必要だが、どこに行けばいいのかわからないという意見が多かったことから、情報や相談窓口はあるものの、その活用方法に対する課題が大きいことが確認できた。特に子育て力の強化については、情報不足や周囲とのつながりに対する「親の不安」が課題として挙げられており、今後も情報の提供方法について検討を重ね、必要な情報を必要とときに伝えていくシステムの構築が必要である。

■子どもの成長に応じた切れ目のない支援について～地域特有の取り組み

少子化や町会・こども会の加入率低下などの社会背景もあり、地域での子どもや親同士のつながりが希薄化しているとの意見が多く、子育て力の強化や情報提供の充実の一つの方策として、地域とのつながりの強化が東部を除く地域で挙げられた。一方、東部地域では就学前のつどいの広場や育児サークルでの交流をスタートとして、そこから子ども会への交流につなげるとともに、子どもから大人になる場として、引き続き青年団に入団するという連続した流れをもっている地域もあり、子どもの成長に応じた地域との関わりや地域で子どもを見守る体制の検討において良い参考事例となった。

■子どもの居場所

公園でのボール遊び禁止や学校の校庭の使用に制約があるなど、安全に遊べる場所が不足しているという意見や、中高生が集える場所の不足などの意見が多く挙げられた。今後はコミュニティセンターやその他各地域の既存施設の活用などによる居場所づくりを促進していく必要がある。

■自分も他者も大切に子ども、自ら考え行動する子どもを育てるには

子どもと親との関係性の問題や子どもではなく親が主体となって行動するなどの問題から、自信のない、やる気のない子どもが増えているとの意見があった。親だけでなく地域でのさまざまな声掛けや見守りを増やして子どもの感情を刺激してみたり、河内音頭祭りで「子ども音頭取り」の活躍の場を与えるなど、子どもが主役となって自信をつけていけるような環境づくりが解決策として挙げられた。

■課題の解決策～地域との交流の促進について

今回さまざまな課題が抽出された一方で、その解決策として「地域とのつながり」という視点からアプローチをかけていく意見が非常に多かったことが特徴として挙げられる。子どもや親が地域との交流を深めていくことで、子どもの主体性の向上に加え、親自身の成長も図るような施策の推進が必要である。また、東部地域の事例にもあったように、子どもの成長に応じた切れ目のない支援を行っていくために、地域の人々についても子育て家庭との関わりの中で子育てを 地域全体で支えていく当事者としての意識の醸成を高めていくことが重要だと考えられる。